

磐城調査新報

發行日(毎月十日廿五日)
編輯兼發行所 福島縣平町新屋町二九
印刷所 加納活版所
電話八四二
一部金十錢 一月金廿錢
廣告料一行十錢 五十五錢

時相警鐘

郡下民政黨員諸君!!!

◆……二暗流を合同せしめよ……◆
昨春二月石城民政部會が時を同じくして一は萩原幹事長主會のものと、一は野崎副會長開會を宣して二つの部會總會が開催され、二様の役員が選任せられて石城政界に異狀の波乱を捲起し、爾來部會は二つの流をなして事毎に兩派イガミ合ひの觀をなし、眞面目な黨員諸君をして擯縮させつゝあるは疑を入れざる事實である。
吾人は當時比佐會長、若松副會長が不在であつたるが故副會長の一人たる野崎氏が部會規則に明示せる「會長事故ある時副會長これに代る」に依り會長の代務とし開催せる總會を正當とする説、或は會場が民政黨俱樂部を使

争はれぬ現實で、其後小策士の横行、大小化物共の跋扈、驚式出來合ひ黨員の跳梁となつて、過去一ヶ年醜い部内鬭争を演出し反對黨の嘲笑を買ひたるは遺憾千萬である。
黨員諸君よ! 政敵石城政友部會の近況を見よ、部會内部の刷新を計り數多の新進幹部を起用して從來非難の中心たる專政寡頭政策を絶廢し、時々會合を開き演説會を催して着々甦生の實を揚げん、堅實なる歩みを續けつゝあるではないか。
加ふるに巷に吹き荒ぶ不景氣風、失業者續出の現狀は決して我黨に有利ではない、吾人がいかに世界的不況を高く唱しても、今日食へぬ多數民衆には耳に入らぬ、いかに政友會内閣の放慢政策の後始末を辯解しても寒空に職を

登屋
電話九九番
九

平町民諸君よ!!!

◆……戸數割増加に反對す……◆
平町に於ては目下昭和六年度豫算編成に苦心中であり其内容は町會の協議會にかけ遅くも二月末日迄には原案作成の上本町會にて審議する事になつてゐるが、時節柄從來の歳入を豫想する事が出來ず、又深刻な不況が齎らす昭和五年度の減收等に依つて可なり編成難を傳へられ、當局の苦心察

於ても石城郡の現狀に痛心し過般支部長大島要三、代議士菅村太事縣會議長太田三郎三氏の名を以て野崎、萩原兩派の代表者に密書を發して仲裁の意を通じたる由、吾人は支部のこの好意に萬謝せんことを感ぜられぬ。
黨員諸君よ!!! 一切の私情を去り、全部の行き掛りを捨て敢然として白紙にかへれ。
そして醜きこの暗流を合同せしめて明なき強大な民政黨石城部會の樹立を期さうではないか。

てある果して町當局の意嚮がそうであるか否か未だ協議に至らぬので記者の知る處でないが、もし然りとするならば斷然反對せねばならぬ。
新聞が報ずる増税理由としては縣稅附加税や國稅附加税が不況に依る激減を擧げてゐるが縣稅や國稅を納入するものは一般的に見て無産労働者に少ない事は火を視るより明らかで、有産者の納稅激減に依る歳入不足を全町民の負擔である戸數割の増加に依つて埋め合せられて堪つたものではな

い。
謂ふまでもなく戸數割は二階借りの獨り者から六軒長屋の貧困者まで一様に負擔するもので、如何なる細民でも平町居住者は納稅高に多少こそあれ納稅の義務がある、それを一部
の者が負擔すべき國縣稅の附加税が收入減なるが故を以つて戸數割の増加を計ることは言語同斷と謂ふべきである。もし町當局が新聞紙の報ずるが如き態度であるならば記者は豫算編成前に當局に一言警告を發して置きたい。
それは財源難を叫ぶ前に歳出の減少を計る事に考へを用ひて貰ひたい、もう少しハツキリ云うなら約五萬圓の役場人件費(擴張部を除く水道部共)並に約八萬圓に達する學校關係の人員費の減額、其他に依る緊縮を提唱するものである。
米一升十七錢也、人夫の手間一日八十錢也の現今決して文句を云ふ役場吏員や先生は絶對ない筈である。
兎に角平町民諸君は昭和六年度平町豫算編成に就て特に注視を怠つてはなるまい。

喪中 年賀 欠禮
諸橋久太郎
諸橋元三郎
平町 市原三三男
市原三三男

寄書 不況時に對しての所感

平町會議員 荒川恒次郎

今日我國家に於て考究を要するを擧げ得るか其の方策を求めつ最も重大なる問題は申迄もなく、あるが現在の不況は世界的で此不景氣をどうして切抜け、如何に言ふ点から見れば一般國何にして挽回し得べきか、と言民が自給自足の觀念を持し産業ふのが問題である、之れが對策の發達を計り、輸出を増進し、は官民一般を通じて強固に樹立輸入を防護し國際貸借關係を改すべき事である、殊に農村の疲弊するの途を考すべきである。弊の現状に直面し茲に救済の急此の不況時に際し生産者の先づ要を叫ぶものである、如何にし苦心とするは第一廉價に苦心て之の深刻に行詰まれる農村を要す、廉價にして良品を作る打開し産業の振興を計るべき事だ、故に産業の合理化の必要今更言ふ迄もなく農業は基本産を生ず、自國の生産品を使用し業にして國の本である、吾國民外國品の執着偏見を去り所謂國の六割を占むる主要産業である産業の觀念を起さしむるのであるから國家は保護獎勵を忽にする。次に不景氣問題に關連してきてないものである。先づ課税の現在の難問題は失業問題にして輕減を行ひ國産振興を計るべく之の救済對策として政府は道路如何にすれば之れを達成せしめどか港灣其他土木事業を起し救得るの方策が第一である、産業政策を講じつゝあるが之は唯一の振興策に關しては素より多種の應急策にして永久的のもの多様の方策もあらう、即ち農事に非ず、眞の失業問題の解決は改良とか、金融の改善、生産消費國産振興策にして吾々國民とし費の合理化、其他産業組合の如て當然なすべき經濟運動であるき農業倉庫、開墾助成の如き等今や吾國は各國と同一の水準の施設も未だ實際の上には完備下に經濟戰に勝敗を決すべき秋とは言ひ得ないのである。一般であり之れに對抗しての勝敗はより言ふならば農村生活の苦痛吾々國民の自覺の如何に拘はるは都會生活者の苦痛より今日ののである、故に之の際吾々は産場合甚しと言ねばならぬ、若し業振興と共に是非國産愛用を叫之れが對策を忽にせんか農村はぶものである。漸次衰頹し將來は廢滅に歸する状態に至る。要するに農産物の價格低落が著しく収入を減少して居るに拘はらず支出に屬するかねて平町共濟病院に入院中で課税は以前の好景氣時代と同様あつた小田吉治氏息龜太郎氏否寧ろ苛重である。先づ農村の一時重態を傳へられたが去月窮狀を救済するの途は産業の振興東北大學病院に轉院してよ與と減税に依るの外ないであるり日々快方に向ひ目下内科能谷更に亦如に何此の不況打開の實外科關口兩博士指導の元に専心

小田氏の令息 快方に向ふ

桂博士治療中であるが、最近では中産階級の唯一の簡易金床上に起き上り自ら故郷への通融機關として獎勵してゐる公設信等を書く様にまでなり退院もさまで遠くあるまへと謂れてゐるが、一時火の消えた様な同家は電燈まで明くなつた気がする。近親知人喜色に包れてゐる。湯本公設質庫 營業開始 紀元節を卜し 納炭一割値下で 五十萬圓減收 各礦鐵道省に泣きつく 常盤各炭礦では昨年末以來非常の炭價に依りやうやく維持されに活氣を呈し貯炭等も皆無の有てゐる各炭礦としては致命的の様にホットト息の体であつた打撃である。目下常盤六大炭礦が、來る三月契約改訂の期にあからなる木曜會で極力鐵道省方面に泣きつき運動を試みてゐる。鐵道納炭が同省の方針として一割値下げを斷行する由なのでこの成否は各炭礦のみならず斯くて常盤炭産出額の六割を占附近町村に多大の影響を與へるめる同炭が現今平均九圓二十錢の各方面より注目されてゐる。



苦悶の味 (七) 麥人

陰慘な幾多の哀話を殘して昭和五年がゆき一陽來福の新春を迎いたが、一向に福の神が舞ひ込み相もない、米が安いのがせめてもの事俺達貧棒人の子たぐいにはいくらか助かる、だが中農以上や地主さんには一寸氣の毒だ。好景氣時代は農家の道樂息子が出ると一寸田町あたりで都々逸の一つも覺えて行かれたに、現在の米價では荷車にでも積んで來ねばそれも出來ず從つて初春早々花柳界も至つて閑散とはごもつもの事。失業救済だなんて柄にない大看板を擧げて工事にかゝつた

御挨拶

新年お目出度うございませす 昨年中は不況不景氣の聲に萎縮して何の事もなくペンと通して仕舞つたのを今さら残念に存じます。 毎年のみならず本年も深く心に決して奮闘するつもりです。 そこで先づ「自らに克つ」と云ふことを決行し様々存じます。 その第一として禁酒をやつて見るつもりです、御承知の如く小生は大の呑助でござい、これで酒尻の事を言ひますが、自分の口に入れるのを我慢出來ぬ事もあるまへと存じやつて見ます次第です。 だが奴さんいふ、財布がつかつたから、なつて開けられるのもイヤだから、宴會等は遠慮なく御つき合ひを下さいます。 昭和六年一月 馬目雅治

立町の悲慘な一家を 小田吉治氏が救助

平町字立町履物商鈴木作治(三)の人々の人情といふ事に感激し(九)一家では作治が重傷を負ひてゐた折柄か、る悲慘な一家の妻タイ(三五)が去る二日出産しある事を知つたので之を救助すたので長男磐中二年生正(十五)に至つたもので、小田氏の寄を頭に六人の子供まで一家八名贈によつて二ヶ月間の生活が出の家計の途が絶たれ正君が學校來るわけであるからそれ迄にはを休んで奔走してゐるが食ふに兩親共健康を恢復するであらう術なく一家餓死に迫つてゐる事と附近の人々も小田氏の厚意に聞き好問村小田吉治氏は非常感謝してゐる。 二升、鹽引二本を惠賜した。 小田吉治氏は平素から義侠心に富んでゐる人として知られてゐるが、昨年来息龜太郎氏が病氣に罹り目下仙臺東北大學病院に入院してゐるが、同町漁業組合に一部を加療中で同氏が發病以來世間を負擔させるのが當然であるといふ事から非常な同情を寄せられたので小田氏は更に痛切に世漁業組合に交渉する事になつた。

四倉初町會 築港寄附協議

四倉町初町會は十四日午前九時開會、四倉漁港修築案が縣會を通過し七萬圓の寄附をする事となつたが、同町漁業組合に一部を負擔させるのが當然であるといふ事から非常な同情を寄せられたので小田氏は更に痛切に世漁業組合に交渉する事になつた。

志を躊躇してまで尻押した町長さんの面目光輝燦爛たるもは、油もいづれ豫算更正で具懸引いてまつてゐる。 勿論町長さん至つて腰が低く先般も役場建築にかゝる一札問題、近頃は水道部の公金横領問題等で常に「恐縮に堪へません」と平説りに御辭儀をまして仕舞ふ腕の持ち主、何事三度でもう一ベン御辭儀をすれば相濟むものご御考察の事だらう。 政友石城支部幹事に井上茂作君がなつたこの事御目出度儀に存じます、だが幹部に新進抜擢して更生を期すと云ふ同部會にしては他に人がなかつたものか同君あたりは願問ごでもしてソツト置いた方が會のためにも同君の爲めにまよからうにナ。 井上君で思ひ出したが、六日の消防出初めの日平署で表彰式があり、櫻村署長、井上組頭、伏見町長、藤田青年團長、四氏が演説をしたその時の事、若い口の良くない連中が集つてゐる盛んに各々の演説について批評し合つてゐた結果、藤田、伏見、井上の順に決つたが、こうなる上往年の雄辯家もトウが立つた様な氣がする。 最近日新聞の誤報、虚報が頻發するので各々の關係者の迷惑を叫んでゐる、十日以來の寒氣で水道工事が休業の止むなきに至つたなんて眞實らしく虚報したり、罪のない奴になるか美人の斃死体の大見出しで内容にドコヤラの女が顔面を腕をメチャクにやられ斃死してゐたなんて書きナぐる、顔面がメチャク

<p>◎◎◎ 賀正 ◎◎◎</p>	<p>有限責任信用組合 平庶民金庫 平町十五丁目二五番 電話四九三番</p>	<p>平町 旅館業組合</p>	<p>平・好間定期自動車 好間軌道株式會社 自動車部 電話四二三番</p>	<p>平町 公立學校校長懇話會</p>	<p>平町四丁目 西洋料理屋組合</p>	<p>平町四丁目 關内藥局 電話四〇番</p>	<p>かまぼこ 仕出し 節 平町二丁目 藤市 電話三〇五番</p>	<p>平町南町 丸大運送株式會社 電話四六八番</p>	<p>荒物雜貨 大一屋商店 電話十三番</p>	<p>平町 住吉屋本店 青天目 電話一五九番</p>
<p>平町紺屋町 織田材木商店 電話四六〇番</p>	<p>平町研町 販製綿 吉村安次郎商店 電話二五七番</p>	<p>古河鑛業株式會社 好間鑛業所</p>	<p>御料理 天ぶら 平町二丁目四三番 越乃家 電話三三〇番</p>	<p>常磐線平町二丁目 山家メリヤス店 電話六〇五番</p>	<p>中華廣東 御料理 平町南町六十八番 華香亭第三支店 電話二九二番</p>	<p>平町四丁目 鶴屋商店 電話四〇番</p>	<p>公債賣買 券賣買 舖質 平町大工町 多田井商店 電話五九一番</p>	<p>小田炭礦株式會社 萩原鑛業所 萩原伸八</p>	<p>平・好間定期・新形貸切 三井自動車部 平町二丁目(電話六八五番)</p>	<p>平電力株式會社 栗原欣次郎 平町四丁目(電話二九七番)</p>
<p>平町四丁目(電話二二三番) 魚問屋 丸市屋本店 志賀盛榮</p>	<p>平町紺屋町(公園下) 阿部材木店 電話四九四番</p>	<p>平町 磐城共濟病院 電話六四一番</p>	<p>石城郡第三區 小學校長會</p>	<p>ヤマフル 醬油 平町 山崎合名會社 電話一〇番</p>	<p>平町二丁目 なかや洋服店 電話二〇三番</p>	<p>石城郡平町三倉 片倉磐城製糸株式會社 電話八一八番・八二番</p>	<p>石城郡湯本町 湯本信用無盡株式會社 電話四七番</p>	<p>石城郡湯本町 入山探炭株式會社坑務所</p>	<p>平町田町 平運送合資會社 電話二九一番</p>	<p>ライトインキ</p>
<p>石城郡第一區 小學校長會</p>	<p>小名濱町 清水屋商店 小野晋平</p>	<p>平町紺屋町 吉田寅之輔 電話四七六番</p>	<p>平町四丁目 マルトモ柴田書店 電話三三四番・五九七番</p>	<p>石城郡第四區 小學校長會</p>	<p>石城郡內鄉村 加藤丈夫</p>	<p>縣會議員 山崎吉平</p>	<p>植田町 小宅嘉久治</p>	<p>平町 阿部政右衛門</p>	<p>平町 江口忠一</p>	<p>平町會議員一同</p>